

経済安全保障と情報通信インフラ

東京大学公共政策大学院

鈴木一人

経済安全保障

- 政治と経済のはざまに落ち込む問題
- 経済安全保障の三つの手段
 - 供給の安全保障
 - 米中が互いに相手のチョークポイントを握る関係
 - 相手に対する依存度を減らすことで安全保障を確保する
 - 技術不拡散の安全保障
 - 貿易などを通じて技術が拡散し、相手の軍事能力が強化される
 - 伝統的な「安全保障貿易管理」
 - 他国の規制からの安全保障
 - 人権などをテコに相手に攻撃的な貿易管理を仕掛ける
 - それに対抗するための「反外国制裁法」などの措置
 - サプライチェーンの見直しによるリスク回避

鍵概念としての「依存：脆弱性」

- 経済安全保障のカギとなるのは「依存」による「脆弱性」
 - 特定の国家(とりわけ敵対的な関係にある国家)に特定の品目を依存している状態は脆弱である
 - Economic Statecraftは脆弱性を狙い撃ちする
 - どこからでも手に入る汎用品ではレバレッジは効かない
 - 汎用品であっても競争力があり、グローバル市場で寡占となっている品目については脆弱性が生じる(マスクなど)
 - 脆弱性回避の手段＝依存低減手段
 - 備蓄、供給元の多元化、代替品の開発
 - 信頼できる相手との取引の重点化 (Free Trade with Trust: FTT)

5Gと経済安全保障

- 5Gは技術覇権を巡る争いではない
 - 圧倒的に競争力のある中国製品を使わざるを得ない状況
- 5G自体の安全保障上のリスク
 - 社会経済インフラへの攻撃というリスク
- 他国の製品に依存するリスクを巡る問題
 - 経済合理性vs.安全保障上の合理性
- どのくらいのコストをかけて5Gを整備するのか
 - 安全保障上のリスクを回避するためのコスト
 - Society 5.0を実現するために必要なコスト

リスク・コスト・ベネフィット

リスク

安全保障上のリスク

コスト

5G整備にかかるコスト

便益

5G早期導入による競争力強化と
社会経済生活の向上

- ・ リスクを高く見積もる→中国製品を排除し高コストを受忍
- ・ コストを抑制する→中国に情報が流れ、有事に停止するリスクを受忍
- ・ 便益を諦める→リスクも取らず、コストもかからないがより大きな問題を抱える